

作成日 令和4年2月21日

令和3年度第5回 高松圏域自立支援協議会 精神保健福祉部会

WG 情報交換会議 議事録

日付	令和4年2月18日（金）
時間	9:30～11:00
開催会場	ZOOMにて開催
	障害者地域生活支援センターほっと、香川県障害福祉課、三光病院、大西病院、相談支援事業所EVEN、高松市障がい者基幹相談支援センター（中核拠点）（2名） 順不同 計7名

※以下議事録、他の各資料中に GH、WG の記載があるときは GH＝グループホーム、WG＝ワーキンググループの意味である。

議題1：情報交換	
議事	・グループホームについて情報提供あり ・2月17日に ZOOM での情報交換会を開催し、あらたに訪問看護の事業所が参加され、違う職種との情報交換ができた。 ・香川県障害福祉課より ①3月に三障害を対象にピアサポーターの研修を企画していたが、コロナの影響で来年度へスライドとなる。 ②香川大学より、学生の障がい理解のために、ピアサポーターの派遣依頼が来ている。学生との交流も含め、10名程度の派遣予定。今後打ち合わせをし、派遣の打診をしていく予定。 ③「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築」（にも包括）の研修がオンラインで開催。2022年2月28日14:00～16:00 部会内メーリングリストで周知する。 ・いわき病院：タブレット面会を実施しており、対面での面会がストップしている。グループホームの体験もできず退院へのモチベーションをどう保つといいのか課題。 ・大西病院：タブレット面会のみ。やむを得ない場合は主治医の判断による。

議題 2：医療と福祉の連携ワーキンググループの報告	
議事	・資料 1 参照 ・令和 4 年 1 月 21 日 WG を開催した。WG で出てきた意見について以下記載 ①内容について 相談支援事業所の新規の受け入れ状況が知りたい。訪問看護の強みや得意分野、特色が知りたい。 ②テーマについて 連携について再度確認。顔の見える関係性が大事 支援者と利用者とのかかわりについて知りたい。 ・部会内で出た意見 連携について具体的に内容を絞っていく必要があるのではないか。 グループの分け方も見直していく。 事例などをもちいて具体的に深めれたらいいのではないかな。 プレゼンで全体の情報を知ることができ、その後事例などをもちいて深めていけたら良いのではないかな
決定事項	目的：職種間の連携の中で利用者とのかかわりについて意見交換をする テーマ：利用者との関係性についてそれぞれの立場で再考しよう。
今後の動き	次回 2 月 25 日（金）14:30～15:30 ZOOM にて実施予定 具体的な内容を検討していく。

議題 3：ピアサポーター派遣について	
議事	・次第参照 ・個別支援 4 件 A 様 10 月からしばらく実施できていなかったが、2 月 16 日に実施。 3 月に支援の振り返りの会を開催する予定。 B 様：ケース会を担当者間で実施し、2 月に再スタート。2 月から 8 月までの 6 か月間で目標を日中活動を有意義にしていく。 今後サービス利用計画に入れていくことも検討。 D 様：子育てについての相談 その都度依頼があれば実施をしていく 定期的な個別支援については 3 か月様子を見て 6 か月で評価、丁寧に支援を考えていく。通常の計画の中に落とし込んで支援の中にピアサポーターを組み込んでいく。

	現在の支援の在り方について、ピアサポーター、B 様支援者、ピアサポートバンキングからピアサポーターに参加してもらい、検討をしていく。 ・ピアサポーターになりたい人についても、ピアサポーターに直接説明をしていただきうまく登録まで繋げていけたら良いのではないかな。現在コロナ禍ということもあり、問い合わせがあった方に個別でピアサポーターの派遣をし、説明をする機会を持つ予定になっている。 今後はピアサポーターになりたい方に向けて説明をする際に、現在登録をされているが派遣がない方も 2 人体制で派遣をするなど機会があればいいのではないかな。
--	--

議題 4 : スーパーバイザー派遣について

議事	・次第参照 ・大川圏域自立支援協議会への派遣が延期になっていたが、2 月 25 日 10 時~12 時に開催がきまった。 ・前田地区民児協に参加。元々作成していた SST の資料を使い、かかわりを具体的に話す機会を持った。民生委員もいろいろなアイディアを持っている。社協のまると福祉相談員も出席していた。コロナ禍でなければ広がっていく活動ではないかな。前田地区のような事例を増やしていき、まると福祉相談員や健康福祉総務課へ周知、演習の活用を来年度も検討していく。必要に応じてアレンジをしていく。
----	---

議題 5 : ピアサポート活動推進ワーキンググループの報告

議事	・資料 2 参照 ・コロナの感染拡大があり、1 月の WG は行っていない。 ・今までの流れとして、パンフレットとアンケートを前回周知した事業所に送付。回収し、集約した。 ・アンケート結果について ①パンフレットの内容：対象者が不明瞭 利用方法について簡素化しフローチャートなどでわかりやすく記載があるといい。 どんなピアサポーターが在籍しているか具体的に記載。
----	--

	現在の研修や、活動実績について知りたい。 ②ピアサポーターになりたいという声を聞いている事業所が一定数あり ③パンフレットを送付したことで興味を示した事業所や、興味を持ってくださっていることが分かった事業所があった。
今後の動き	アンケートの内容を踏まえ、今後のパンフレットの作成や、普及啓発活動について検討していく。

議題 6：ピアサポーター交流会・検討会の報告	
議事	資料 3 参照 1 月 14 日開催。 ピア活用者とピアサポーターとの交流をした後、検討会を開催した。 これまでの取り組みの振り返りと課題、各圏域に共通した課題について共有し、次年度からのピアサポーターの活動について検討を行った。
決定事項	次年度は学校と民生委員に対し、普及啓発活動を行っていく。 学校：ひきこもり対策事業について義務教育課と連携して話し合っている。高校の先生に焦点をあて、まずはスクールソーシャルワーカーへ高校教育の状況についてヒアリングを行う予定 民生委員：民生委員の代表の集まりで周知し、各地区に周知してもらう。申し込み用紙を送り、申し込みをまつ。
今後の動き	2 回目の検討会で流れの確認をし、実施していく予定であったが、コロナ禍で延期。 次年度早めに開催をし、各圏域の代表と予算など決めていく。

議題 7：高齢者分野との連携に関する報告	
議事	資料 4 参照 1 月 12 日に WG を開催。
決定事項	介護保険分野の関係者との研修を企画していく。
今後の動き	事例や具体的な研修プログラムを確認していく。 次回：令和 4 年 3 月開催予定

議題 8：精神科病院の地域移行に関する取り組み報告

議事	三光病院：12月21日クリスマス会を開催。全病棟を対象。 1月25日に対象病棟のみで実施。新年の抱負や退院についての想いを聴く。 2月25日に開催予定であったが、コロナの状況の変化により病棟職員以外は病棟に入れない状況になっているため、プログラムは中止。現在再開の目途はたっていない。 大西病院：12月16日に飛び立ち倶楽部を開催。今年度の活動の振り返りをお菓子とコーヒーを提供しながらプロジェクターを使用し、行った。（グループホーム、薬剤師から薬、栄養士から栄養についての説明） 今年度の振り返りのアンケートも取り、調理でハンバーグが作れてよかった。グループホームについて話してくれてよかったと、自宅へ帰宅を希望されている方から意見がでた。また、薬の副作用や管理の仕方について知ることができ、薬のセットをしっかりとできるようになった方もいる。 参加者の方の中には5年目の方もおり、少しずつ地域での生活についてに興味を持っていただけるようになった方もいるので、時間をかけて伝えていくことが大切だと感じた。
----	--

次回：令和4年4月15日（金）

対面とリモートでの開催を状況により検討していく。

令和3年度 精神保健福祉部会 WG 情報交換会議

1、日 時：令和4年2月18日（金）9：30～11：00

2、場 所：WEB 会議

3、出席者：

4、議 事

（1）情報交換

（2）医療と福祉の連携ワーキンググループの報告 （資料1）

○目 的：職種間の連携の中で利用者との関りについて意見交換をする。

○テーマ：『利用者との関係性についてそれぞれの立場で再考しよう。』

（3）ピアサポーター派遣について

（個別支援）

- ・A様：4月21日(水) 5月19日(水) 6月30日(水) 7月21日(水) 8月25日(水)
9月22日(木) 10月27日(木) （1時間）
- ・B様：6月9日(水) 7月7日(水) 8月4日(水) 9月8日(水) 10月6日(水)
11月10日(水) 12月1日(水) 1月5日(水) 2月2日(水) (50分)
1月21日(金)・2月9日(水) ケース会議を実施
- ・C様：9月16日(木) 10月13日(水) 11月22日(月) 12月21日(火) 1月7日(金)
- ・D様：1月11日(火) （1時間）

（高松市健康づくり推進課 当事者のためのスキルアップセミナー）

- ・日 時：11月30日(火) 10：00～11：30
- ・派遣者：ピアサポーター 2名（精神障がい）
- ・内 容：ピアサポート活動報告と体験談の発表

（ピアサポーターバンキングスキルアップ研修会）

- ・日 時：12月21日(火) 9：30～12：00
- ・派遣者：ピアサポーター2名
- ・内 容：個別支援に関する研修

(その他)

- ・高松圏域相談支援専門員協会 フォローアップ研修会 中止
- ・高松市健康づくり推進課 統合失調症家族教室 中止
- ・高松市障がい者基幹相談支援センター中核拠点ピアサポート活動報告会 中止
- ・ピアサポーター合同事例検討会 中止

(4) スーパーバイザー派遣について

(地域生活定着支援センター事例検討会のファシリテーター)

- ・日 時：9月30日(木) 13:30~15:00
- ・派遣者：相談支援専門員1名
- ・内 容：事例検討型スーパービジョンを活用した事例検討

(高松市健康づくり推進課 統合失調症家族教室)

- ・日 時：10月28日(木) 13:30~15:30
- ・派遣者：相談支援専門員1名
- ・テーマ：社会資源の利用について

(高松市社会福祉協議会国分寺老人介護支援センター)

- ・日 時：12月1日(水)13:30~14:30
- ・派遣者：委託相談支援専門員1名 基幹センター相談支援専門員1名
- ・内 容：精神障がい者を中心とした障がい者へのかかわり方について(演習)

(精神障害にも対応した地域包括ケアシステム WG 会議)

- ・日 時：12月20日(月) 9:30~12:00
- ・派遣者：委託相談支援専門員1名 基幹センター相談支援専門員1名
- ・テーマ：事例型スーパービジョンのファシリテーター

(高松市前田地区民児協)

- ・日 時：12月24日(金)19:00~19:30
- ・派遣者：委託相談支援専門員1名 エリアの基幹センター相談支援専門員1名
- ・精神障がい者へのかかわり方について(演習)

(香川県主催 ピアサポーター交流会・検討会)

- ・日 時：1月14日(月)13:30~15:30
- ・派遣者：基幹センター相談支援専門員1名
- ・ピアサポーター検討会のファシリテーター

(大川圏域自立支援協議会) 延期

- ・ 日 時：1 月 14 日(金) 10：00～12：00
- ・ 派遣者：相談支援専門員 1 名

(5) ピアサポート活動推進ワーキンググループの報告(資料2)

(6) ピアサポーター交流会・検討会の報告(資料3)

(7) 高齢者分野との連携に関する報告(資料4)

(8) 精神科病院の地域移行に関する取り組み報告
(三光病院) 資料5

(大西病院) 資料6

5、次回の会議

日時：4 月 14 日(金) 10：00～11：30

会場：かがわ総合リハビリテーションセンター

精神保健福祉部会 保健・医療・福祉の連携ワーキンググループ

日時:令和 4 年 1 月 21 日(金)10:00~11:00

場所:Zoom会議

参加者:EVEN、ライブサポートセンター、支援センタークリマ、香川県障害福祉課、ほっと(敬称略)6 名

○保健・医療・福祉の連携ワーキンググループの開催について

(意見)

○当日の内容について

・病院ソーシャルワーカーからの情報要望について確認。

① 相談支援事業所の新規の受け入れ状況が知りたい。

② 訪問看護の強みや得意部分、特色が聞きたい(PT,OT がいるなど)

③ 相談支援事業所、訪問看護のスタッフの配置(男女比、年齢など)が知りたい。(利用者とのニーズマッチングに役立てたい)

→事業所の強みや配置などは事前の冊子に盛り込めるのではないかな。

→事業所に焦点を当てていきたい傾向がある。

※冊子では事業所に焦点を当て、当日は個人に焦点を当ててはどうか。

○テーマについて

・個別ケースで、利用者と事業所とのマッチングで苦慮したことがある。ケースのかかわりをテーマにしてはどうか。

→過去には連携の在り方や事業所の強みなどはテーマにしたことはあるが、かかわりをテーマにしたことはない。

・うまくいかなかったケースや困ったケースなどを切り口に、切り抜けた方法などを話の内容としてもいいのではないかな。

・「今ほしい支援をみつけよう」(テーマ候補)

→1 回目の開催で話が発展してくるようであれば、2 回目など、複数開催も検討する。

・各関係機関からラポール形成やインテーク方法などを説明してもらってもいいのではないかな。

○目的について

・新規の事業所も立ち上がっているなか、コロナの影響で関係性も希薄になりつつある現状ではあるが、改めて顔の見える関係性をつくる。

・過去の目的については、1 回目「顔の見える関係づくり」、2 回目「本物の連携を手に入れる」、3 回目「本物の連携とは」となっている。

・自分たちの行っている支援を確認する。(具体的施策や方法)

(結論)

- ・まず、目的とテーマの叩きを作成し、メールでの意見集約、調整を行っていく。
- ・内容について確認したのちに、冊子の作成を行っていく。

●次回の保健・医療・福祉の連携ワーキンググループについて

- ・次回 2/25(金)14:30～15:30 Zoomにて実施予定。

令和 3 年度精神保健福祉部会 ピアサポート活動推進ワーキンググループ

ピアサポート活動に関するアンケート調査報告書

令和 4 年 1 月 19 日作成

1. 目的

- ①パンフレットの修正点や今後の周知活動のヒントを得る。
- ②ピアサポーターが直接周知活動を行った事業所に対しても同様のパンフレットとアンケートを送付し、送付のみの事業所との効果の違いを把握する。（直接周知活動を行った事業所：職員に対する打ち合わせ 8 か所⇒利用者への説明 4 か所）

2. 調査期間

令和 3 年 12 月 27 日～令和 4 年 1 月 14 日

3. 調査対象

前回パンフレットを送付した事業所及び、直接ピアサポーターが周知活動を行った事業所：全 160 か所（162 か所送付。2 件宛先不明のため返信あり）
（1 件 2 事業所で 1 通の返信の連絡あり。1 件事業所から 2 名の担当者より返信あり）

4. 調査方法

郵送及び手渡しでの配布、Fax 回収

5. 回収状況

回収数：61

有効回収率：38%

6. アンケート結果について まとめ

- ・パンフレットの対象が不明瞭で分かりにくい現状がある。ピアサポーターを利用したい方、ピアサポーターになりたい方、関係機関の支援者の皆様に対し、対象をわけた内容を検討する。（その際、当事者、支援者等呼び方については要検討）
- ・利用方法についてフローチャートなどを用い流れが分かるように簡素化するとよい。その際料金等の記載もあるとよいと意見がある。
- ・ピアサポーターについて、具体的なイメージがもてるように、活動場面の写真や導入例、ピアサポーターの意見、体験談を文章化して伝える等の工夫が必要。
- ・周知方法について：ライン、Twitter などの SNS やメディアを活用する。一般市民にも広く PR。定期的な機関誌の発行や、ポスター等での周知。
- ・ピアサポーターの有効性について伝えていくため、現在の活動実績や、研修や交流会の開催、現在のフォロー体制についても伝えていく。

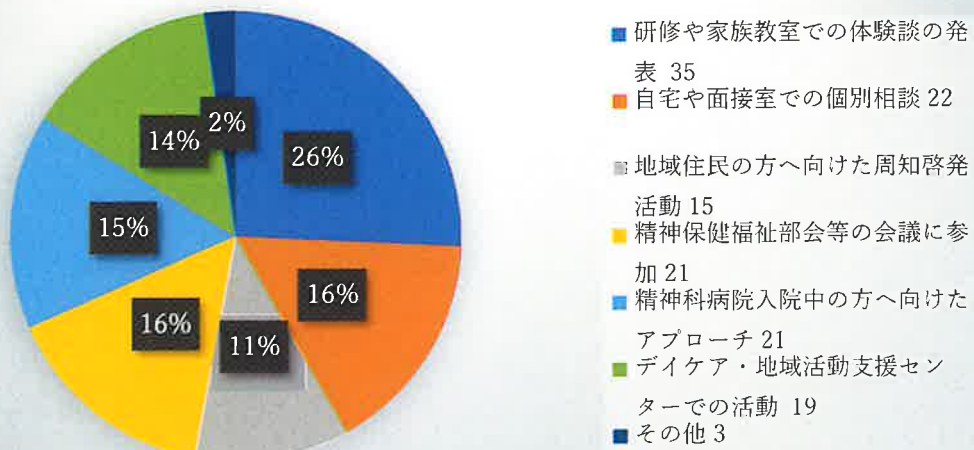
- ・ピアサポーターになりたい方が、一定数いらっしゃり、なんらかの働きかけがあると良いのではないか
- ・郵送と直接周知をした事業所とを比較すると、周囲での変化の所では、郵送では「ピアサポーターについて知る機会になった・特に変化は感じない」という意見が多かったが、直接周知では、「ピアサポーターに興味を持たれた方がいた。ピアサポーターに相談したいという声を聞いた」という意見が多く、直接周知をしたことで具体的なイメージを持っていた。しかし、直接周知をした事業所においてもすべての事業所からの返信はない状態である。また、郵送した関係機関の中には、ピアサポーターの活動に興味関心が深い機関があるという発見があった。
- ・ピアサポーターの有効性について伝えていくためには、精神障害に限らず、すべての障がいを対象としたパンフレットを検討していく。

1. パンフレット内のピアサポーターの活動についてご存じでしたか？

知っている活動にチェックをお願いいたします。（複数回答可）

郵送した事業所 はい：43 いいえ：10

知っている活動（郵送）



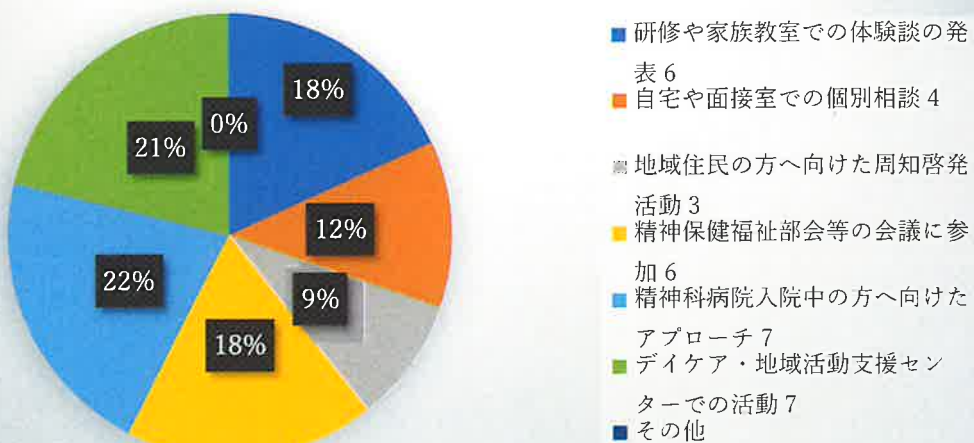
その他：活動していることだけ知っている、やっている方がいる（知っている）

グループホームの運営、電話相談、NPO の運営

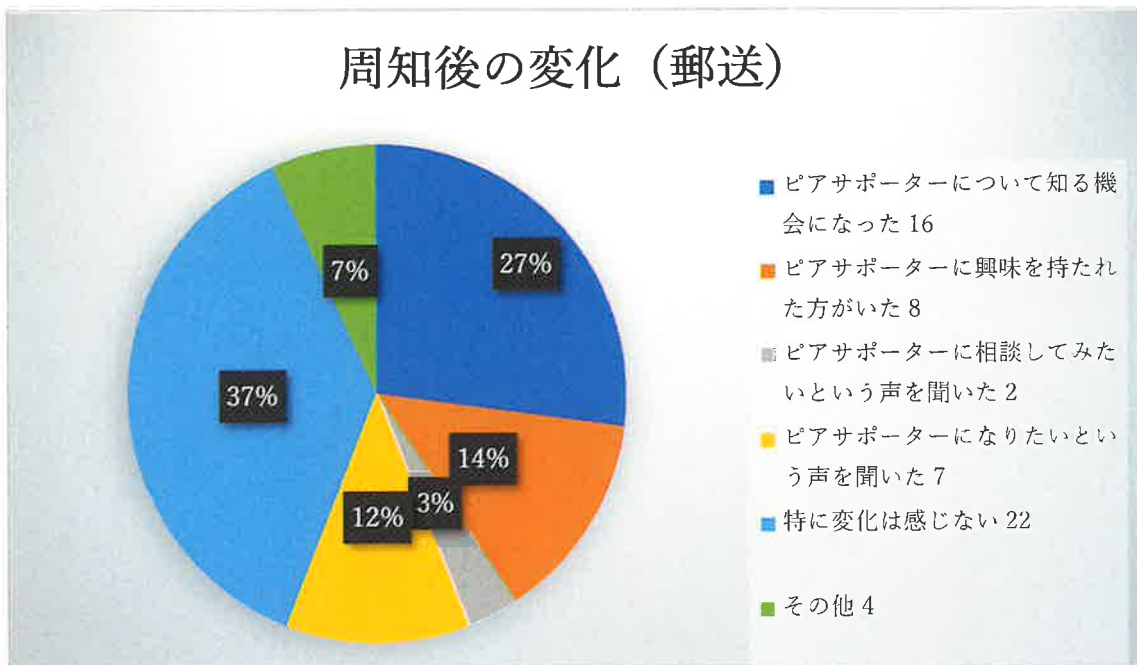
直接周知 はい：8 いいえ：0

※直接周知し返信があった事業所：8 か所中 5 か所返信あり

知っている活動（直接）



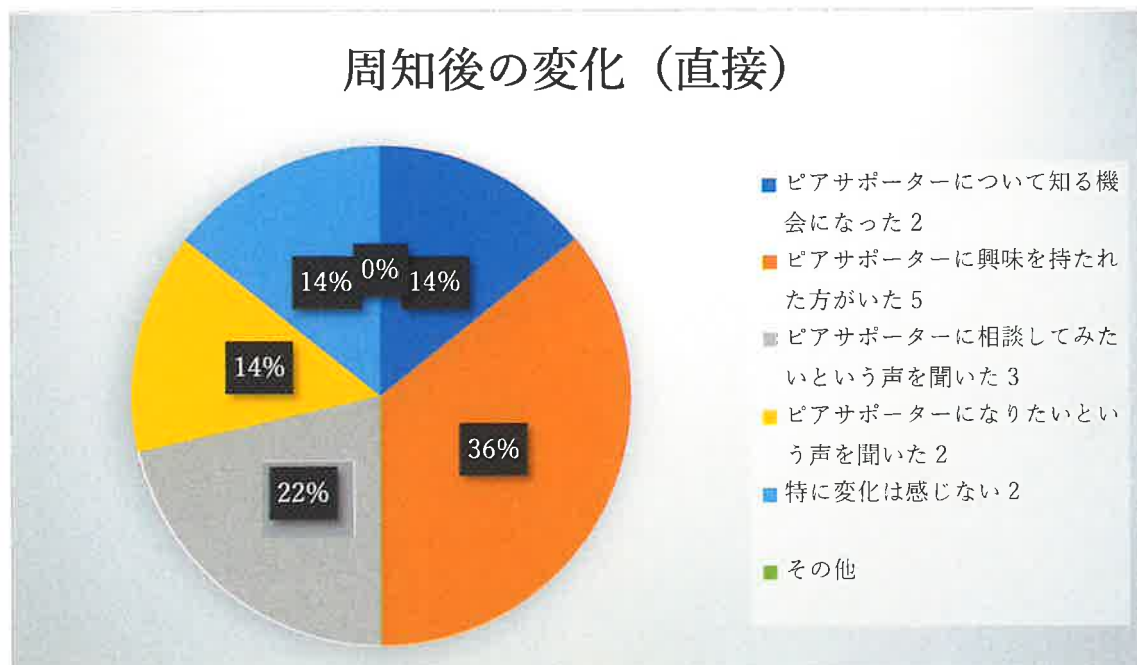
2. 前回の周知後、周囲で変化はありましたか？



その他：利用したいよりなりたいと希望する方が多かった。

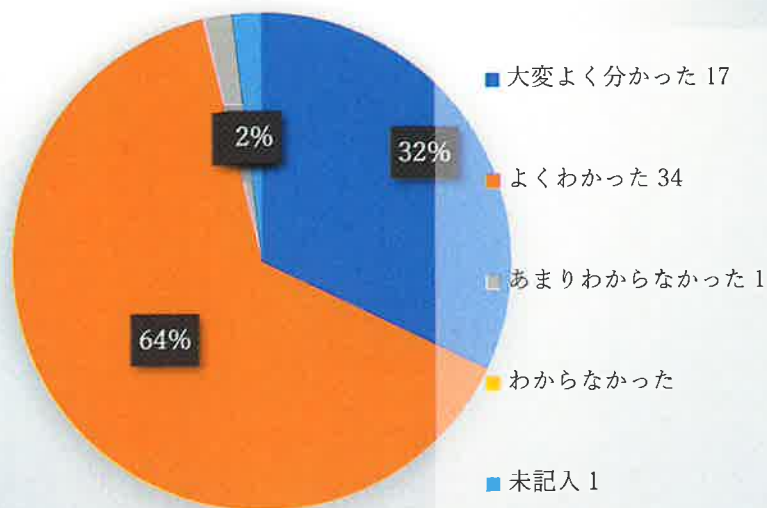
官主導ではなく自主的にピアサポート活動をしたいという声は少なくない。

ピアサポーターのサポーターが必要という意見が多い。



3. パンフレットの内容は理解していただけましたか？

内容の理解（郵送）



パンフレットの内容でわかりにくい点や改善点があれば教えてください。

【相談支援】

- ・活動内容は分かったが、利用者が知りたがるお金の動きが見えなかった。
- ・猫がかわいいので親しいが持てる。
- ・文字が多いという印象を受ける。もう少し簡単な文章、短い文章で表現する工夫ができる部分もあるかと思う。

【日中活動系サービス事業所】

- ・ピアサポーターになりたい方向けの情報と、活用していただくための情報が入り交ざっており分かりづらいところがある。ふりがながあるところ、ないところがあり気になった。

【医療機関】

- ・誰に対して何を訴えたいか曖昧
- ・管制ピアサポート活動の色合いが強く肝心のピアサポーターの顔が見えない。
- ・ピアサポーターを利用したい当事者、ピアサポート活動をしたい人、関係機関の支援者の三者に対する内容が混在しており、当事者や活動したい人に渡すのに少しわかりづらい点がある。利用したい人に向けては、実際に交通費など費用負担が発生するのかなど、具体的な内容、流れがある方が分かりやすいかと思うのと、「活動をする上での配慮」の項目の内容が利用希望の人にとっては気を遣う内容かと感じました。

【訪問看護】

- ・精神障害という項目が大きいためもう少し細分化したもの（例えばこういう人に対してなど）を記入していればわかりやすいように思う。

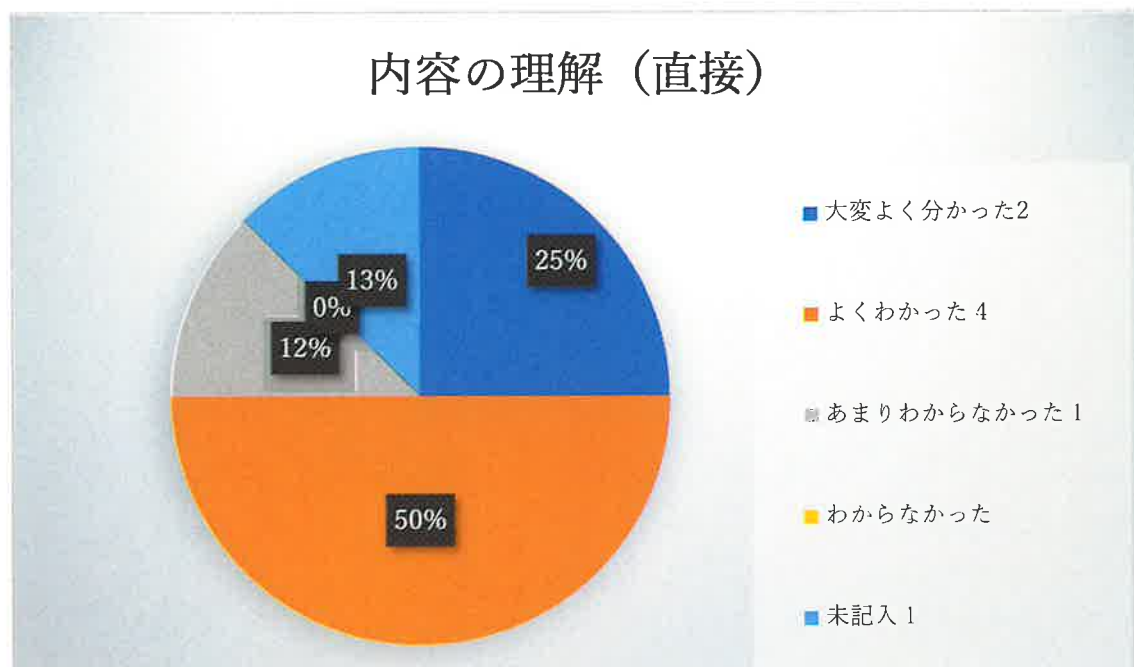
【行政】

- ・レイアウト（見出し、フォントの統一等）の修正をすることでより見やすいパンフレットになるのではないか。
- ・活動場面の写真等が載っているとよりイメージがしやすい。

【日中活動系サービス事業所】

- ・精神障害や精神科病院で治療をしている人を対象とした制度のような印象を持ってしまう。

直接周知した事業所



パンフレットの内容でわかりにくい点や改善点があれば教えてください。

- ・パンフレットを配布するだけでなく、ピアサポーターの方の説明も同時に行うことで興味関心が深まったように感じた。（配布だけだと??）ピアサポーターについての説明がタイトルですぐに分かるよう、例えば、「精神に障害がある方や支援者の方へ」など吹き出しで伝える等の工夫をしてもいい。（対象が明確でないことが当事者やサポーターを傷つけないやさしさ?）最近は様々な分野でピアサポーターという言葉が使われており、精神障害者に限られていない。【行政】
- ・特にわかりにくさを感じる点はありません。【デイケア】
- ・理解に対してとは、当事者に対してか、当職員に対してなのかどちらですか?【デイケア】

4. ピアサポーターの活動が今後広がっていくためにどのような取り組みが必要だと思いますか?

郵送した事業所

【相談支援】

- ・研修会に本人と参加した際に、「当事者」「支援者」と呼ばれるのが嫌だと言われていた。私には無かった視点だが、そのような所に抵抗がある人もいるのかもと思った。
- ・独自に活動をしていて一方的な意見を主張する人がいる。イメージが悪くなりかねないと感じた。
- ・導入例を具体的に相談支援部会で紹介するなど周知するといい。
- ・LINE や Twitter など匿名で利用できる SNS 等を活用して相談を受けるまでのハードルを下げてみてはどうか。
- ・余暇活動やスポーツなどにともに取り組む場があり、その中で自然と会話が弾むというような居場所やサークル的な活動もよいのではないかと思います。
- ・障害者関係の機関や人だけではなく広く一般市民へ PR していく必要があると思う。
- ・ピアサポーターとして何かを与えなければならないといった成果に対するプレッシャーを感じさせないような普及啓発が必要。また、医療機関からの広報や、候補の方へのアプローチを依頼していくなど、協力をお願いしていくことも大事。知的障害者のピアサポーターの育成を教えていくことも必要だと思う。

【日中活動系サービス事業所】

- ・ふりがなのあるところとないところがあるところが気になりました。研修会と一緒に企画、開催の項目で「GW」とはグループワークでしょうか？
- ・ご本人に周知をするが今一つ関心がなくどのように利用してよいかわからない。
- ・手続きとその後がフローチャートのようなもので一目で流れが分かるような視覚的に工夫があると良い。
- ・広く周知をするためにメディアを活用する。悪い情報が先行しがちだが、ごく当たり前の生活を送ることが困難な人がいることから知っていただくこと大事だと思うから。
- ・体験談など可能な範囲で文章化したものなどあれば、イベントに参加をする勇気がなくても伝わってくるものがあるのではないのでしょうか？
- ・チラシを使って利用者さんにピアサポーターについて話が出来た。わかりやすいチラシをありがとうございました。
- ・利用者さんで興味を持っている方と研修を受けている。
- ・周知しないのでしょうか？施設内で掲示します。毎月発行している会報にも書いてみます。
- ・現在の活動を継続していく。
- ・当事者や医療機関等への PR 活動。精神科領域での地域移行の実践を統計と事例を交えた研修を行う。
- ・啓発活動や研修会等、もっとピアサポーターの活動が分かりやすい取り組みをしてほしい。B 型にも加算が付き始めたが、どのようなものか、スタッフ、職員にも詳しく教えてほしい。

- ・まずは活動について知っていただくことが大切である。すでにされていると思いますが、チラシ、パンフレットの配布。各機関や施設での掲示をすることをおもいました。
- ・自分も含めて支援に関わっているスタッフが実際の活動の場などに参加してみることが必要だと思います。

【医療機関】

- ・ピアサポーターの活動のための財源の確保
- ・ピアサポーターによる主体的な広報、普及活動（機関誌発行、シンポジウム、本アンケートのような別表）
- ・ピアサポーターによる精神医療ユーザー（特に入院中のもの）に対する権利擁護活動
- ・ピアサポーターによる
- ・家族会での講演、障害者手帳や自立支援医療の申請時に窓口でパンフレットを配布する。
- ・ピアサポーターをしっかりとバックアップするシステムが必要。ある程度個人情報を守る保証がいるのではないか。
- ・当事者手動で広げていくのは、なかなか難しいかと思うので精神科の入院中のプログラムやデイケアなど支援者がフォローできる環境でまずは体験を話してもらい、存在や活動について知ってもらい実際に当事者とサポーターが交流できると次につながりやすいかと思いました。病院のためわかる範囲で記入させていただきました。

【訪問看護】

- ・精神科医療従事者、行政などと一緒に活動をし、連携を強化することで地域住民、当事者から認知される必要がある。
- ・今回のようなパンフレットをポスト郵便などを行い、認知していただく。ピアサポーターとしての役割などを、まずは知っていただく。相談があれば対応していくのではなくこちら側からアピールしていく。
- ・ピアサポーターのメンタルフォロー、技術提供、分かち合う場の提供（ピアサポーターのための）が充実すればいいなと感じます。
- ・行政と協力しながら、その存在やメリットを広報を粘り強くする。定期的なアナウンスや活動をし続ける。
- ・地域移行にピアサポーターの活用がいい影響を与えた事例を各病院に伝えていく。

【グループホーム】

- ・コロナ禍でなかなか実現は難しいと思うが、コミュニティセンターやカフェなどの落ち着いた場所での活動が多くなれば参加しやすい。

【行政】

- ・非常に魅力的な活動で、支援する側される側双方にメリットが多いため、より普及してほしいと思う。その中で、支援者、情報提供するサイドの認知度がまだ低いことが現状であると思うので、周知方法（ポスター、研修会、メディア）を検討していただくことでより広がった活動になるのではないのでしょうか。

- ・ピアサポーターの活動機会の充実
- ・ピアサポーターについて知る機会の充実
- ・活動の周知啓発

直接周知した事業所

- ・メディアで取り上げてもらう。ポスターを作成して事業所や病院に貼ってもらう。【医療機関】
- ・サポーター拡充のため、研修の簡素化。サポーターについての幅広い周知【行政】
- ・実際の活動内容を写真や文章にしてまとめ、定期的に便りを発行して配るなどすればもっと詳しくピアサポーターについてしれると思います。【デイケア】
- ・まずは今までどのような成果を収められてきたのかお伺いしたいです。【デイケア】
- ・ピアサポーターを希望する方の病状安定化が必要。病状に波がある方が多いと思われるので大勢の方に参加していただき、症状によって担当を変えられる体制が必要。【日中活動系通所サービス】
- ・ピアサポーターの人数を増やすことが必要。【地域活動支援センター】

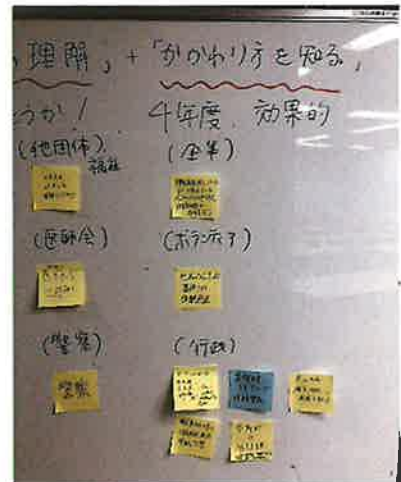
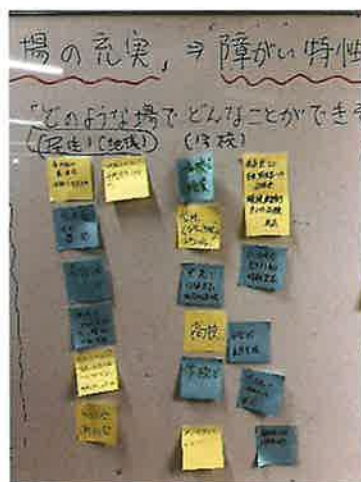
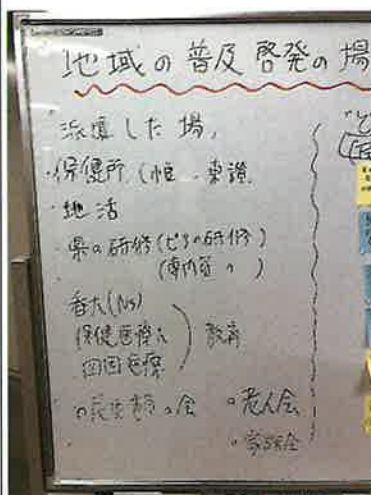
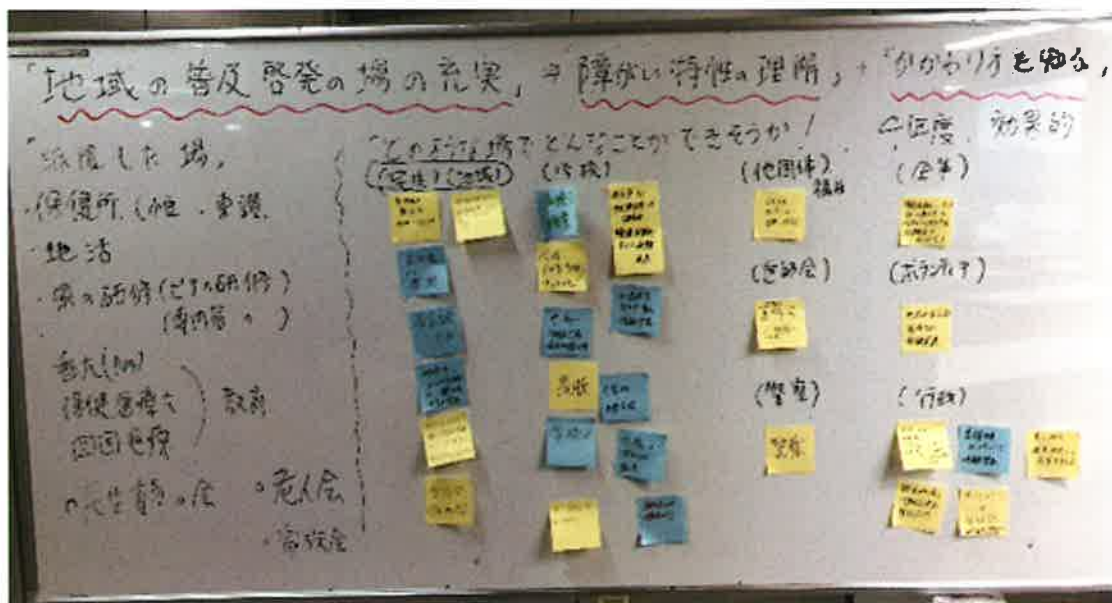
資料3 精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業に係る
ピアサポーター交流会・検討会（第1回目）

課長	副課長	課長補佐	副主幹	主任・主事	担当
日 時	令和4年1月14日（金） 13:30～15:30				
場 所	香川県庁 12階 第3・4会議室				
参加者	各圏域の支援者11名、ピアサポーター12人、ピアサポーターの付き添い1名 詳細は参加者一覧のとおり				
担当者	①香川県障害福祉課 ②高松市障がい者基幹相談支援センター ③広域AD（欠）				
内 容	1 はじめに 今回は交流会と検討会の2本立てで実施する。交流会は、「ピア同士の交流」や「ピアと支援者の交流」を、検討会は、「ピア活動促進のための今後の方向性をピアサポーターや各圏域の支援者と決める」ことを目的としている。いろんなアイデアを共有し次年度の取組みを検討していきたい。 2 自己紹介（交流会）※進行：香川県障害福祉課 1）非言語的コミュニケーションを取りながら誕生日順に座席を並び替え着席する 2）1月から順番に自己紹介 （支援者は所属と名前、ピアサポーターは事前準備したA3用紙に沿って）  3 香川県のピアサポーター活動の紹介（県障害福祉課）…資料① R3年度の香川県の取組み、ピア活動、課題、検討したいことを紹介 4 岡山県のピアサポーター活動の紹介（県障害福祉課）…資料② 広域ADから事前に共有してもらっている資料を紹介				

5 香川県のピアサポーター活動の課題解決のための意見交換
※進行：高松市障がい者基幹相談支援センター

【検討事項】障害特性の理解のために地域の普及啓発の場の充実

- 1) これまでに派遣した場所・派遣された場所の共有
保健所、地活、県主催の研修、大学、民生委員の会、老人会、家族会
- 2) どんな場でどんな活動ができるか各自考え発表
 - ①学校
 - ②民生委員（地域）
 - ③その他（団体、医師会、警察署、企業、ボランティア、行政）



3) 次年度どの場所から取り組んでいくか

ピ ア：意見の多い順に取り組んでいくべきだと思う。

①学校 ⇒ ②民生委員（地域）

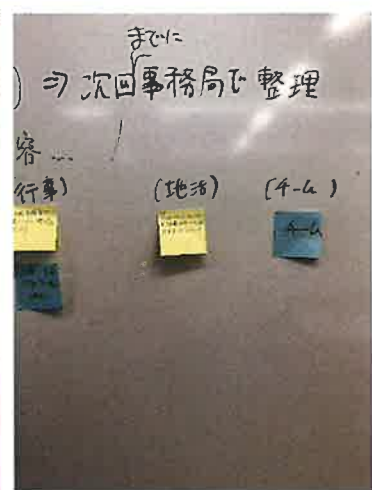
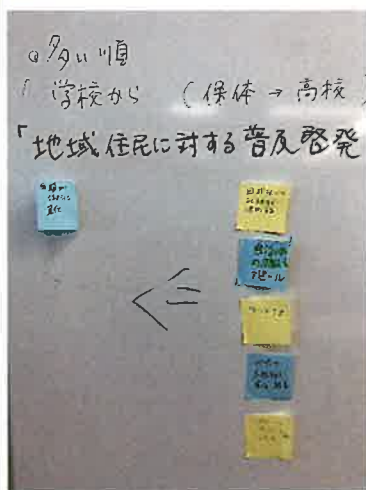
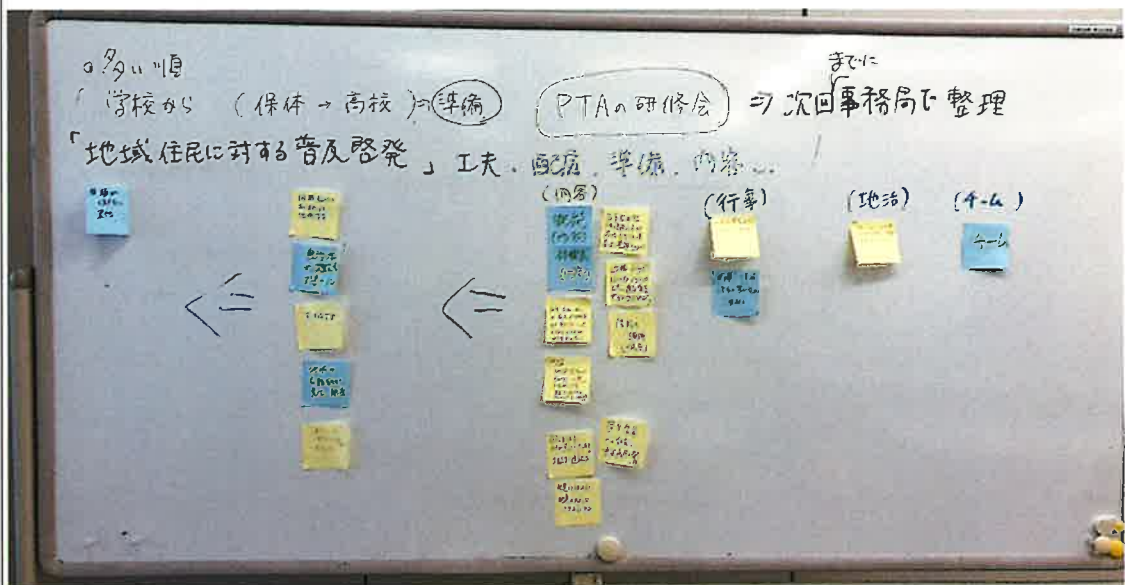
ピ ア：かつて民生委員から「あなたは黙って」等と言われたことがありとても辛かった。民生委員はとても重要な立ち位置であり、私たちも頼りにしていきたいので言動に気を付けてほしいし、病気についてももしっかり理解してほしいと思う。

ピ ア：高校では次年度から保健体育の事業に精神疾患の理解が教科書に入るようになった。その部分とうまくリンクさせて活動できないだろうか。

支援者：学校教育に早期より、精神疾患とそれを持つ人の理解に対する教育を取り入れることが決定している。「うつ病」や「統合失調症」の病名が教科書に入るそう。

支援者：学校は4月に事業のカリキュラムを決めるため、次年度は学校へ啓発活動するための準備期間として準備を進めるのでも良いと思う。

ピ ア：夜間のPTAの集会で研修会を取り入れても良いのではないかな。



(内容・工夫)

支援者：わかたけ等では一緒に清掃活動をしている（行事を絡ませる）。

支援者：プログラムの中に地活をうまく絡ませる。

ピ ア：チームでやるのが大事。みんなで切磋琢磨する。

ピ ア：回覧板、広報紙、ケーブルTVで広報する。



【まとめ】

アイデアの共有にとどまらず、取組みが実現できるように検討を続けたい。今後もピア活動促進に向けてどう進めるのか、各圏域の代表やピアと一緒に考えて組み立てていくことで、色々な場所で活躍していけるのではないかと思いますので、第2回目も開催することになった場合は是非参加していただきたい。

【結論】

●第2回目開催時に、学校、民生委員（地域）への普及啓発の具体的な方針の検討
⇒事務局が第1回目の結果を整理し、次年度からの取組みの骨組みを提案する。

印

病院 WG 報告書

(作成者：)

病院名	大西病院 WG
内 容	<u>1.病院 WG 実施状況</u> ①退院支援プログラムの実施状況（プログラムの様子、参加者の反応など） 12/16、第 12 回とびたち倶楽部をおこなった。これまでのとびたち倶楽部の活動風景をプロジェクターで振り返った。その後、スタッフが入院患者一人一人について、アンケート用紙を基に面談をおこなっていった。 ①とびたち倶楽部でのプログラムで一番心に残っているのは何ですか。 ②とびたち倶楽部を通して地域での生活について考えることはありましたか。 ③来年、挑戦してみたいことや達成してみたいことなどがありますか。 ④病院スタッフに手伝ってほしいことは何ですか。 最後にお菓子とコーヒーをいただきながら参加者より今年度のとびたち倶楽部の感想を話してもらい、終了となる。 ※アンケート結果については別紙参照。 ②地域移行支援の実施状況 ・とびたち倶楽部の参加者で、コロナ前に地域移行支援を利用していた方が、コロナ感染者が落ち着き次第、GH への体験入所の予定。 ・とびたち倶楽部の参加者より GH の体験入所に行きたいとの希望あり。しかし、家族の意向を尋ねると、「何かあったらどうするのか」と言われ、調整は難航している。

R3 年度とびたち倶楽部・アンケート(実施日：R3.12.16)

①とびたち倶楽部でのプログラムで一番心に残っていることは何ですか

- ・みんなで調理した。めずらしいものばかりでおいしかったです。
- ・とくにないです。
- ・コロナが収束したらまたみんなでゆめタウンへいきたい。
- ・グループホームについて(関心がある、見学・体験も行ってみたい)、くすりについて(副作用について教えてくれた)、調理についての講座がよかった。
- ・全部心に残っています。すべて良いことでした。また復習していただいたら、来年も復習して身につくまで何回でもお話ししていただきたいです。
- ・みんなと話をしたりしていると気が紛れ、またすごろくゲームなど様々あると思うのでスタッフに考えてもらいたい。
- ・ハンバーグ作り、くすりについての飲み方や時間について。
- ・精神科のお薬をもっと教えてほしい。副作用とかいろんな薬があるから。どんな仕事があるのか教えてほしい。
- ・調理が楽しかった。分担しておいしくできた。また簡単な物でいいのでしてみたいです。体を動かす簡単な運動もしてみたいです。
- ・第6回目のおくすりについて。服用の仕方について指導していただきました。
- ・くすり。薬剤師さんの話しが心に残った。薬は飲まないといけないと思った。飲み忘れてもまた感覚をあげて飲めば良いと思った。
- ・調理。
- ・調理実習。おくすりについて。

②とびたち倶楽部の活動を通して地域生活についてどのように思われますか。

- ・いろいろあって楽しいと思う。良いと思います。
- ・家に帰りたい。
- ・物忘れがひどいです。自分でも腹立たしくなるほど情けなくなります。
- ・仕事もしていないし、机を並べてスタッフと一緒にしたいと思った。
- ・地域生活についてついていけない。
- ・今まで分からなかった退院後がよくわかりやすくなった。
- ・地域の人とのかかわりが持ちたいです。
- ・多方面に知識を得られて良かったです。
- ・自立。おじさんたちに頼らずに生活していきたい。そのためにも退院していきたい。
- ・お姉さんと一緒にくらしたい、太田上町、家族あり。
- ・ほどよい。

③これからチャレンジしてみたいことや達成してみたいこと

- ・またみんなで調理したい。美味しいものを食べに連れて行ってもらいたい。
- ・なぜ家に帰れないのか、分からないので父母に聞く。
- ・調理がしたい。
- ・退院したい。
- ・健康になりたい。一回だけでは頭に入らないので何回でも1から10復習していただきたいです。

- ・ゲームなどをして笑い合いたい。
- ・ゆめタウン、ドラッグストアに買い物に行きたい。
- ・みんなでいろいろな所に行ってみたい。
- ・あたたかくなったら散歩に行きたいです。その途中でコンビニに寄って簡単な物を買ってみんなで食べたいです。コロナが落ち着いたら買い物にも行きたいです。どんな薬を飲んでいるか聞いてみたです。
- ・肉体労働。体を使う仕事が良い。肉体労働のほうが要らんことを考えなくて良い。病気のもならない。
- ・ジグソウパズルをしたい、良いかお姉さんにきく。
- ・ゆめタウンへ行きたい。

④その目的を達成するためにスタッフに手伝ってほしいことはありますか。

- ・料理をするときにもついてほしい。今とても幸せです。
- ・とくにないです。
- ・相談に乗ってほしい。
- ・わすれやすくなっていて困っています。面倒がらず、何度でもお話に来てほしい。
- ・買い物もしてみたい。自分で薬のセットを覚えて薬を飲んでいきます。薬を飲むと慣れたら元気が出てそろそろ治ってきそうな気がします。
- ・スタッフについてきてもらいたい。時間に一カ所に集まるのではなくて自由にゆったり買い物をしたい。もちろん規則は作ってだけでもう少し長い時間を使いたい。
- ・もう一度、お薬のことを教えてもらおう。
- ・一緒についていってもらって楽しみたいです。
- ・頭脳。一緒に考えてほしい。仕事に関することを教えてほしい。
- ・グループホームへ見学。